

自分自身の足元をよく見つめてみよ^(※1)中第 25 回卒 佐藤 光^(※2)

●福島県立美術館運営協議会会長



私が在学した大正末期は、大正ロマンの残影なお色濃く、若者は将来への夢や希望をみな持って学校生活も活気があった。

従って進路についての問題意識もしっかりしており、それぞれに勉強し、社会へ出た。

学校では特に進学準備の学習もなく、予備校ごときもなかった。

進学する者はみな自分で勉強した。従って進学勉強はとくに苦痛ということではなかった。

今の高校生は受験体制の中で苦しんでいるように伝えられるが、これも心の持ち方であろう。

また今の時代ほど若者の自由勝手に許される時代はかつてあるまい。

まず平和で、豊かで、兵役の義務もない、国家さえ念頭になく、もっぱら自分のことだけ考えればよいというような時代だ。

これは若者にとって、幸か不幸か、分らない。

こんな時代がいつまでも続くはずもなからうからである。

われわれの時代は「戦争」で誤った。

これからの世代は「平和」で誤ってはなるまい。

よくよく自分自身の足元をみつめることであろう。

旧制相馬中学を昭和 2 年に卒業、東京高等師範、東京文理科大学に進む。

秋田師範、秋田大学、福島大学等歴任、県教育長、国立福島工業高等専門学校初代校長、県文化センター館長を経る。

現在、県立美術館運営協議会会長として、美術館の充実・発展に余力を捧げているが、県民の誇りとする美術館にしたいものと念願している。

(※1) 創立 90 周年記念誌 『紅の旗』 〈1988(昭和 63)年 9 月 2 日発行〉

「今こそ伝えたい、希望と勇気を =OB から若駒への熱きメッセージ= 」より。

(※2) 大野出身。